

地域とつながり、いきいきと暮らす

平成30年 12月 8日

踏入区

区長 下里 秀人

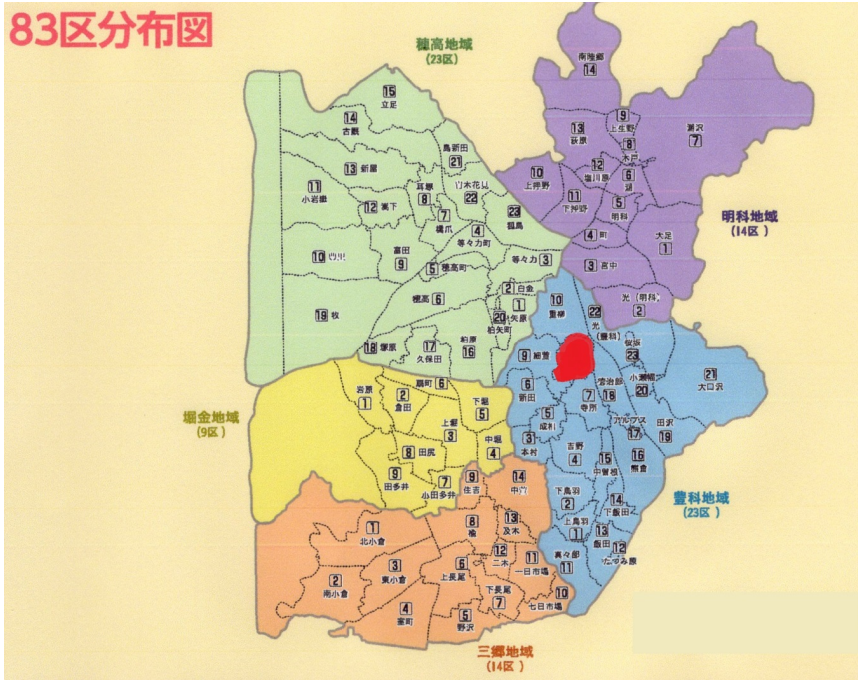
1

活動報告

2

踏入区のご紹介

83区分布図



人口

男294人、女322人
計616人(217世帯)

豊科 16番目
市 64番目

年齢構成

平均年齢48.25歳

豊科 15番目
市 47番目

年少 13%
生産年齢 57%
老年 30%

※ 安曇野市の平均
構成と同じ

安曇野市HP統計情報より

3

地域とつながる

- 独居や孤立は寂しい
- 家族や友人とのつながりを持ちたい



【高齢者の本音】

- 子供や若者のペースに付き合うのは辛い
- 長時間の付き合いは疲れる
- 外出すること自体が億劫なことが多い

4

嬉しいつながりかた

- 世代間交流は楽しいけれど、時間は限定的な方がありがたい
- 同じ嗜好、同じ趣味の人達とは**自由**に交流できる「場」が必要
- 同時に「足」も大切である
- 参加することが億劫な場合もあり、**柔らかな誘い**がありがたいこともある

5

踏入区での取り組み

- 例えば、敬老会.....
 - 「爺さん婆さんだけでメシ食ってもつまらん」
 - 子供育成会との連携による刺激
- 例えば、夏祭り.....
 - 「今の若いモンは炭の熾し方も知らねえ」
 - BBQはジィちゃんの出番
- 踏入「活き活きサロン」
 - 区内の同好会をまとめてみたら、ナント、.....

6

ひと味加えた敬老会



7

1時間後はいつもの．．．



8

定番スタイルの敬老会に



9

全世代集合の夏祭り



子ども会の
皆さんに加え、

地区社協
公民館
区総代
の面々が参
加。

BBQコンロは地域力向上事業交付金にて購入

10

あずみの祭りは流れたけれど



お揃いの法被も地域力向上事業交付金で購入

11

踏入「生き生きサロン」

踏入区内の同好会を集めて、「生き生きサロン」を結成

同好会の名称	会合頻度	会員数	設立
大正琴教室	2回／月	8名	2006年から
俳句教室	1回／月	10名	2017年から
マレットゴルフ愛好会	2回以上／年	15名	1994年から
卓球教室	5回／月	9名	2017年から
つくし会	4回／年	11名	2000年以前
囲碁同好会	2回／月	4名	2009年頃？
健康麻雀同好会	1回以上／月	10名	2018年から

12

盛んな同好会活動(1)



大正琴教室の皆さんが敬老会での演奏



踏入俳句教室の面々

一句献上
「踏入や ああ踏入や 踏入や」

13

盛んな同好会活動(2)



卓球教室
練習用マシンも有ります



囲碁同好会
「王手っ！」
「待った。」 ???

14

盛んな同好会活動(3)



マレットゴルフ同好会の皆さん



キャディさん、5番アイアンをください。ってか？

15

新たに発足しました麻雀同好会



ツモったのはこの人

ナント、この半荘で四暗刻ツモが

16

活動における課題とその解決法

17

踏入区としての課題認識

- 歴代の区長さん6名にインタビュー
- 大きなトラブル、不満も無いが、「地味な区」でもあるという評価
 - ☞ このままで良いのか、もっと活気を望むか
- 同好会活動は盛んだが、老人クラブは停滞している
 - ☞ 気楽な寄り合い、茶飲み話の場が無い
- 旗振り役がいれば協力的でまとまりやすいが、その引き受け手がなかなか現れない
 - ☞ 踏入区に限ったことではないが、.....（普遍的な傾向）
- 区民の性向
 - ☞ 依存型、やや閉鎖的、単発的（持続性が弱い）
 - ☞ 協力的、まとまりやすい、好きなこと楽しいことには腰を上げる

18

現状の課題と解決策

【課題】

伝統や文化の伝承には世代間交流が必要だが
核家族が普通となっている
世代間で話をする機会は意外と少ない



【どうするか】

夏祭り

全ての世代が参加できるイベントにして行く

敬老会

既成概念に捕らわれず本音で喜んでもらえる催しを工夫

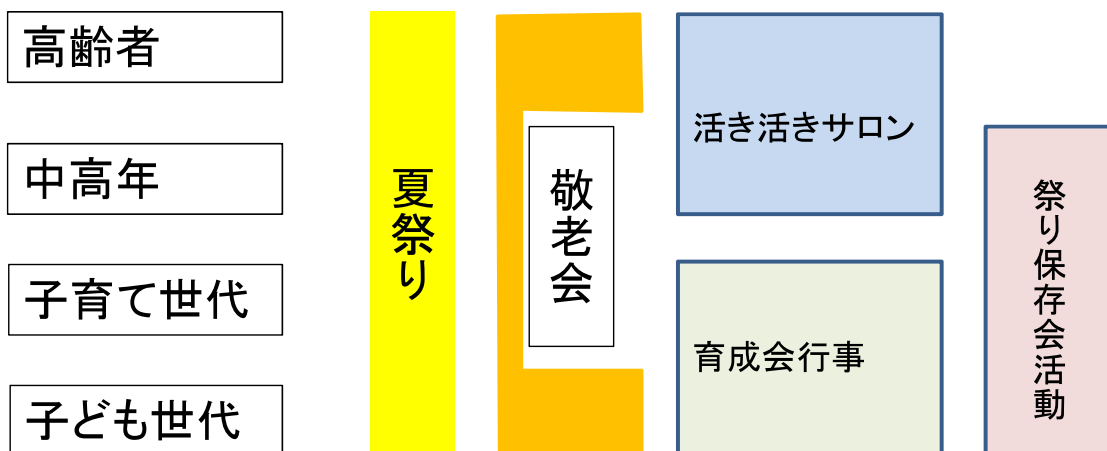
生き生きサロン

引き籠らない → 心から楽しめるサロン活動

「柔らかな誘い」のための施策を工夫

19

踏入区の世代間交流



20

今後の抱負

21

生き生きサロンの今後

- 先ずは通年で快適な活動ができるように
 - コミュニティセンターに空間設備を設置
 - 支援の専門職の活用
- 支え合い
 - 生活支援
 - 「語り」
 - 各団体の中だけでなく、サロン全体へ

行政でカバーできない問題を区で、区でも行き届かない問題は小集団で

全てを解決しようとせず、先ずはできる範囲を

める

あれは、…」

普通になってくる

22

少しばかり毒を吐きます

- 「支え合う」というけれど
支える側はいつも支えなければならない
支えてもらう側は支え続けて欲しい
☞ 片方向の愛情、見返りは無い
- ボランティアが続くという期待は
短期的なものと考えべき
少なくとも、長期的にアテにすべきではない
- ボランティア・ポイントを設けたらどうか？
高齢者移送の問題解決の一助となるのではないか
コストをかけたくない気持ちも分かるが、
日本でも「水と安全はタダ」でなくなっている

23

ご清聴、ありがとうございました

m(_ _)m

24